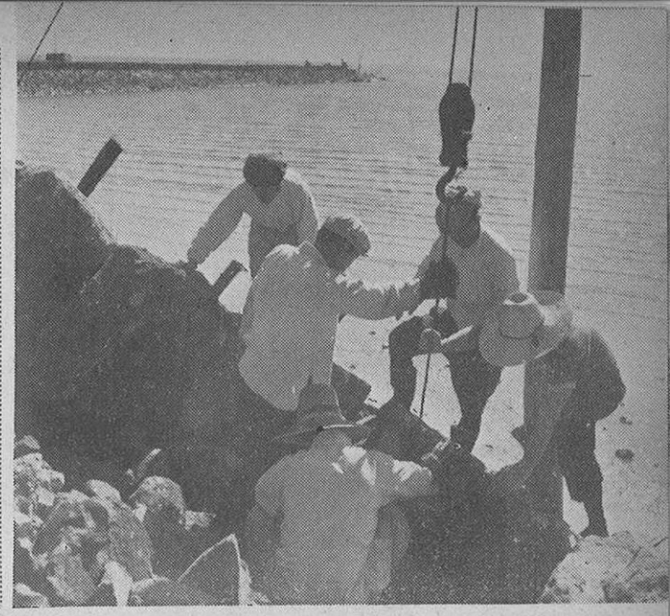

有明航送船に備えて長洲港の堤防工事

○万円であつた予備調査費も今年度は一〇五万円に増加し、県、議会、期成会をはじめ、特に地元天草住民を一丸とした熱意は、着々と実現への歩みを進めてきました。

道路公団福岡支社では、十一月中旬から本格的な経済調査と技術調査を開始しましたが、年内にこれを完了して、明春早々事業計画書を公団本社に提出することになつています。本社ではこれに基づいて、技術、経済効果の両面について検討するわけであり、具体化へ一歩前進したものとして注目されています。

阿蘇登山道路の舗装

海の天草架橋に対して、山では阿蘇の登山道路の舗装が、総工費二億一千万円を以て道路公園の手で行われていましたが、去る十月五日完了し、華々しく開通式が挙げられました。

年間数十万の観光客を集める阿蘇国立公園も、これまで道路の不備が嘆かれていましたが、これで山麓一合目から山上広場まで約一三、四キロ、巾六メートルのアスファルト道路を快適なドライブが出来るわけです。

又、山上茶屋の広場から火口までにはロープ・ウェイの工事が、明年二月完成を目標に進められており、阿蘇山の観光価値は一層高まることでしょう。

健軍飛行場

三十四年四月には完成見込

交通面空の話題としては健軍飛行場の整備があります。運輸省では、国内空港整備計画でローカル専用の第二種空港として、熊本空港（健軍飛行場）を指定し、建造費は一億七千五百万円。片道四十四分を要し一日六往復することになつており、産業、交通、観光面に大きくクローズアップされるものとみられます。又、交通面での大きな計画として、「天草架橋」も忘れてはならないものの一つでありましよう。

天草架橋の計画

宇土半島の先端三角から、大矢野島を経て天草上島に到る合計六カ所、総延長一、一キロメートルの架橋と、道路延長八、三キロメートルの新設を含む総工費十五億六千万円の「天草架橋」計画は、三一年一月、期成会を結成して以来既に二年目を送ろうとしています。昨年度三

拡がる国土・二つの干拓事業

――金剛干拓・十四年ぶりに完成――

十四年前と云えば大東亜戦争のさ中、昭和十八年に着工された国営の「金剛干拓」は、総事業費六億六千万円を以て、六月十八日完成し、晴れの鍬入れ式が盛大に挙行されました。

四二五町歩の広大な干拓地に入植した一七〇戸の人々（熊本一四三戸、長野二〇戸、鹿児島七戸）は、一戸当り一町六反の用地の割当をうけ、明日への希望を胸一杯に抱いて早速田植にとりかゝりました。

家はすべてブロック建築。道路の新設用排水路の開さく、橋の架設その他整地事業が引続き行われましたが、国の重要施策の一つとして、全国的に推進されつゝある干拓事業は、このようにして県下に〝新しき村〟をつくりあげ、食糧増産に大きな役割を果すわけです。

この金剛干拓に続いて、不知火海の干拓事業も今年から着手されました。

不知火干拓調査始まる

百五十億で十カ年計画

一万町歩の新らしい土地を生み出す不知火干拓計画は、工事が簡単で工事費も安くて済むことから、県や農地事務局では、有明干拓より一足先に着工の見透しを立て、三十四年度には、農林省の直轄調査の開始を予定しております。そこで県では、その予備調査を来年度中に終えるために、下調査をただいま始めております。

計画によりますと、八代市の球磨川河口（三ツ島）、天草千束島（旧維和村）南端と三角―戸馳島―千束島北端をそれぞれ締切り、不知火海の北約三分の一を干拓、七千町歩の水田を作つて年間米三十五万石約三十五億円を生産することになつております。

これを二カ年の継続事業として工事にかゝり、予定より二年遅れの三十四年春に完成の運びとなりました。

いまのところ、全長一三〇〇メートルの滑走路のうち九〇〇メートルのグリ石工事が済んだばかりですが、この滑走路工事は、グリ石、石炭バラス、コンクリート舗装という三層工事で、これに通信施設や待合所を加えると総工費一億四千万円となかなかお金のかゝる仕事であります。

空港建設については、九州各県に較べやゝ立ち遅れ気味であつたのをバンカイしようと、県や県の商工会でさかんな陳情を運輸省や極東航空株式会社（現在の日本航空輸送株式会社）に続けてまいりました。

何と云つても、熊本は九州第二の都市、然も商工業にますます飛躍的な発展をとげようとする熊本にとつて、健軍飛行場の実現は、関西商工都市を中心に直接結びつく重要な空のルートであり、又福岡を起点とした九州一周空の旅も、文字どおり空ごとではなくなるわけです。

悲惨だつた七・二六災害（熊本市坪井川流域）

復興への努力〝七・二六災害〟

七、二六の豪雨災害は今年のビッグ・ニュースの一つ。二八年の六・二六災害の傷がまだ癒えやらぬ本県に、又しても甚大な打撃を与えました。

思えば七月二十五日から二十六日にかけて本県の西北部を襲つた豪雨は五二六、九ミリ、一時間最大降雨量七六ミリという空前のはげしさで、坪井川、井芹川加勢川及び菊池川を急激に氾濫させ、又金峰山周辺一帯、いたる処に地辷り、崖くづれを引起し、一七〇名に及ぶ死者行方不明者を出し、農地、河川、道路、鉄道等に七六億という途大な被害を与えました。

県では直ちに災害対策本部を設け、情報の蒐集、水防と救助活動に当り、特に被害の甚だしかつた熊本市ほか一市九カ町村に対しては災害救助法を適用して急速なる物資の補給に万全を期しました。

各地水防団の活躍に加えて、自衛隊の出動、医療班、防疫給水班、病害虫駆除班の派遣活動、及び六四五町歩の植替に要する一、二一七万株というぼう大な量の救援苗の輸送が昼夜兼行で行われ、水防救助活動が展開されましたが、特に自衛隊は八月十五日まで出動七千数百名、車輛二百数十台に及び県民感謝の的となりました。

一方、八月一日には災害対策本部を復興対策本部に切り替え、松尾町、天水村河内芳野村、北部村の四地区に対する特別復旧対策、坪井川、井芹川の改修計画及び一般被害地に対する復旧対策等総額五六億円に及ぶ復興対策を樹立し、又県議会においても災害対策特別委員会が結成され、県並びに県議会の総力を挙げて急速遺漏なき復旧をはかることになりました。

この間急拠西下した岸総理大臣、根本建設大臣、赤城農林大臣、衆参議院災害調査団等中央要職及び関係者に対し災害の実情を訴え復旧対策をお願いするとともに、数回に亘る上京陳情が行われました。

★　★　★

救援苗到着!!